

【出題意図】

いま人間社会が直面している最大の問題が地球環境問題であることは、人類共通の認識である。それは、生態系の破壊、地球温暖化、資源の枯渇等さまざまな形をとっているが、私たちの通念を根底から揺さぶる問題を提起している。しかし、この地球環境時代の生き方について、私たちはまだ明確な指針を確立できていない。いかにして持続可能な発展を支える文明が実現できるのかという問題は、21 世紀社会の大きな文明的課題であり、少子高齢化と天然資源の乏しさを前提とせざるを得ない日本の将来にとっての課題でもある。

出題の意図は、21 世紀の文明社会が直面している状況や課題を客観的に把握しているのか、それらの課題を解決する方法を考察することができるのか、そしてこれらのことを踏まえた上で、身近で具体的な一例である本課題の環境問題（エコバッグとレジ袋）に関して考察を行なうことができるのかということである。

（キーワード）：（問 題）資源、環境負荷、ライフスタイル、社会制度、日本文化

（背 景）地球環境問題、空間的広がり、時間的長さ、自然、文化、価値、
21 世紀と文明、

【総合的な学力検査】

以下の 5 項目について問う総合的な学力検査である。

- 1) 英文解釈（著者の問題提起、世論、著者による現状調査説明と著者の見解を読み取る力。）
- 2) 読解力・考察力・論述力（英語と日本語による問題文の相反する見解を読み取り、それを簡潔にまとめ、問題文をもとにして考察を加えて自分の見解を日本語で明確に論じる力。）
- 3) 現代社会（身近な社会問題の把握度。国際社会・日本の社会制度への関心度・把握度。）
- 4) 人文学的発想力（文化・価値の視点から考察を加えることができるか。）
- 5) 自然科学的発想力（自然科学的発想、および空間的・時間的視点から考察ができるか。）

公立大学の国際文化学科が行う「総合学力試験」として、下記 3 点を念頭において作題した。

1.地域社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取り上げる。

2.内容の正確な理解に加え、得られた情報を活用して的確に判断する能力も問う。

特に英文資料を読み理解した内容を小論文に活用させることにも留意し、内容理解を促すような作題を心がける。

3.自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価並びに妥当な判断を「小論文」として説得的に表現・展開する技能と態度を問う。

【講評】

問 1 は That の内容を文脈から正確に読み取れている問うことで、流れをよく理解しているかを確認しようとする問題です。

直前の 1 文の内容だけでなく、前段落の内容を要約して答えを示すことが、この問題の要点です。

日本語の表現も含めて正確に答えている受験生は約半数でした。

問2は数値データを正確に読み取れているかを試す、基本的な問題です。

「捨てる」と答えた者のパセンテージを問うものですから、**Only 0.8 percent threw away the bags.**という記述を見つければ、非常に簡単な問題であるといえます。全体で90%以上の正解率でした。

問3も数値データを正確に読み取れているかを試す、基本的な問題です。

調査結果の記述部分から **83 percent of respondents said they used them to line their kitchen garbage pails.**を探し出せばよかったです。この文章中に **line** という単語がありますが、注に「内側を覆う」と示されているのですから、問いの文章と照らし合わせればすぐに正解できるもので、この問いも非常に易しい問題です。全体で90%以上の正解率でした。

問4は、まず下線部の **I wonder, however, if that is really what will happen.**という文章を正確に読む必要があります。**however** は「しかしながら」という意味の挿入語ですから **I wonder if ~**というつながりになります。「一だるうか」という意味です。**if** 以下の部分は、**Is that really what will happen?**という疑問文のように捉えることができます。

ここで重要なのは **that** の指し示す内容です。**cutting back on plastic shopping bags is a way to reduce garbage and thereby curtail carbon dioxide emissions blamed for causing global warming**の部分が **that** の指し示す内容であるということを理解できれば正解にたどり着けます。

問いの答えとしては「それ（レジ袋を減らすことによってゴミを減らし、ひいては二酸化炭素の排出量を減らすこと）は本当に実現できるのだろうか」という疑問に対する筆者の答え（考え）の箇所を抜き出せばよいことになります。

筆者の考えは、「レジ袋を減らしたとしても、ゴミの量はさほど減らないのではないか」という考えですから、その箇所を抜き出せばよいことになります。この内容の箇所は2カ所考えられます。どちらかを解答すればよいことになります。正答率は約40%。

問5は英文解釈の問題です。構文を読み解く力と語彙力が必要となります。

まず、**urge** という単語ですが、**urge** 人 to 動詞という形で使います。「人に一することを熱心に説得する」という意味で、人を強く説得したり、強制したりするときに用います。派生語である形容詞 **urgent**（緊急の）、副詞 **urgently**（切迫して）、名詞 **urgency**（緊急）などからわかるとおり、**urge** は時間的に差し迫った感覚を持つ動詞です。

customers（消費者）に強く説得したい内容としては、（1）生活スタイル全般の見直しをする(**re-examine their overall lifestyle**)ことと（2）生活のあらゆる場面でゴミを減らすための可能なあらゆる努力をすること(**make every possible effort to eliminate waste in all areas of life**)の二つのことが挙げてあります。**leftover food** は「食べ残し」です。

キーになる単語としては、**urge, re-examine, eliminate, leftover food** などですが、さほど難しい単語ではないと思います。この長文問題の流れを考えてこの英文を読むことで、た

とえ **eliminate** という単語を知っていなくても、**waste** (ゴミ) が分れば、「ゴミを___する可能なあらゆる努力をする」に当てはまる日本語として適切なことばは何かを導き出すことができます。このように下線部だけを読むのではなく、長文全体の流れを読み取ることが大切です。

この問題は語彙的にも構文的にも易しかったようで、正答率は約 80%でした。

内容は先入観なしに、筆者の主張を探るように読むようにしましょう。

今回の英文は、**plastic shopping bags** はキーワードになっていますが、表題が示すとおり「レジ袋より大きな問題がほかにある」という論調です。内容を先入観なしに読まなければ、間違った方向に読んでしまいます。内容を勘違いすれば、小論文を書く際に、正しく内容の引用などができなくなってしまいます。また、小論文の論点が問題文とずれてしまうことにもなってしまいます。気をつけましょう。

以上、問 1～問 5 は、問われている内容に関する英文を、そのポイントとなるキーワードを押さえながら、いかに速く見つけるかというリーディング力が試される問題です。

このように英文中から素早く情報を検索するためには、1) キーとなる単語に気をつけながら英文に目を通す； 2) 英文を速く読む力（語彙の知識、構文に関する知識）をつける； 3) 普段から、簡単な英文を多読する、の 3 点が大きなポイントになります。

問 6：小論文

1. 記述内容が「課題」と合致しない答案が散見された。特に、英語の問題文の内容理解が不十分な答案、英文解釈はできているにもかかわらず英語の問題文の内容を小論文にいかしていない答案、日本語と英語の問題文をまとめた内容が記述されていない答案が散見されたことは、残念である。課題に答えていない答案が肯定的な評価を得ることはありえない。課題並びに問題文の内容を理解・読解する態度を期待したい。
2. 環境問題への関心の高さや学習状況・浸透度の高さが伺える答案が大半を占めたことは、評価に値する。欲を言えば、受験までに学習した内容だけに固執せずに、問題文をもとにして考察・論述ができる能力や態度を養ってほしい。
3. 問題文の要点を踏まえ、エコバッグに対する「自らの考え」をレジ袋と関連させながら、多面的な視点からの考察、社会制度への理解および考察、日本文化的要素への考察を加えて、接続詞や段落などを意識的に活用して、明晰かつ体系的に論述した答案は高い評価に値する。